

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園子どものしあわせを願う会
発行日/1995年10月26日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

19号

この秋も陽光保育園恒例の運動会が催された。前日の職員会議はプログラムにそって最後の総点検。大道具・小道具についてはそれほど気を使わずにチェックリストにそって点検される。しかし運動会の主人公である一人一人の子供の育ちと育った力をフルに発揮させるためにはどんな構成がいいか、保育の動き、道具の置きかた等々、担任を中心に最後の最後まで検討され、その子の持ち味を最大限に表現されることを願う職員たちの思いが交差し、ぶつかり合う。子供たち一人一人の顔が浮かんで熱がはいるのです。当日はお父さんお母さん、そして遠路かけつけて下さったおじいちゃんおばあちゃんの惜しみない拍手を一身に受けて、子供たちが輝いた一日でした。私たち大人も、子供たちの一生懸命な姿に励まされ、秋晴れのようにすがすがしい幸せな気持ちになりました。

社会福祉法人陽光会 理事長交替 長い間、ごくりごりつらまじりました

陽光保育園はこの夏に創立四十七年目を迎えました。何もなしどころから始まった保育の仕事、関係者や地域の方々の励ましを受けながら何とか今日まで歩んでまいりました。この五月の理事会で理事長の交替がありましたのでごあいさつ申し上げます。

理事長退任のごあいさつ

平沢 静子

秋さわやか、皆様にはお元気にお過ごしのことと存じます。

さて、私はこの度高齢のため陽光会理事長を辞めさせていただきます。数年からの悲願がようやくかなえられたのでございます。私は陽光保育園の初めから三十年間園長として、その後には理事長として今日に至りました。その長い年月、どんなに沢山の方々のお世話になりましたことか、ほんとうにありがとうございました。



前理事長 平沢静子さん

後任は、卒園三名のお父様、片山高司氏がお引き受けくださいました。保育園をめぐって課題多く困難な時代、誠に御苦労なことです、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

御存知のように陽光保育園は青空保育の最初から地域の皆様、先輩保育園、誠に御苦労なことです、何卒よろしくお願ひ申し上げます。最後に、皆様の御健康と、子どもたちの眼がいきいきと輝き、働く人間が幸せに暮らせる世の中が一日も早く来ることを願って止みません。

親子でいっしょにあそびましょう

リズム、うた、散歩、砂あそび、赤ちゃん体操など

陽光保育園では、地域の乳幼児、お母さんを対象に、月1回、「親子でいっしょにあそびましょう」の催しを行い、同時に育児相談にも応じています。お気軽にご参加ください。無料です。

【対象】 0歳児～5歳児

【場所】 陽光保育園

【時間】 午前9時～11時

●1995年度—今後の日程

11月9日(火)

12月21日(木)・・・冬のつどい。豚汁を作ります。おにぎりのみ持参してください。

1月9日(火)・・・新年のつどい。もちつき大会を開きます。

2月8日(木)

3月5日(火)

●参加ご希望の方は、事前にご連絡ください。☎3956-1068



理事長就任にあたって

片山高司

平沢静子先生のお仕事を継いで、理事長に就任することになりました。

平沢先生のお仕事をお手伝いするようになってから約四十年になりましたが、保育者としての資格も、保育の経験もない私がこの重責をつとめられるか、いささかの不安もあります。

しかし、共同保育から出発した陽光保育園の理念、保育者と父母が力を合わせ、一緒に考え、一緒に行動しようという考え方は、昔も今も変わらないものと信じています。

板橋区児童公園

夏の「子どもの池」

開設期間復活

署名の協力

ありがとうございました

今年も暑い暑い夏でしたが、平成五、六、七年度と、三年連続して「子どもの池」(通称ジャブジャブ池)の開設期間が六日間短縮されています。これは区の予算削減によるものですが、「子どものしあわせを願う会」では、区内の公私立の保育園や婦人団体等にも呼びかけて、その復活を要望する請願に取り組み、去る九月六日、板橋区議会に提出しました。

紹介議員は社会党・遠藤千代子、公明党・朝賀正、共産党・小野修悦の三氏に受けていただきました。

そして、九月二五日、建設委員会で付託審議されましたが、残念ながら継続審議となりました。

九月議会までに届けられた署名は、一五六八名です。十一月議会(建設委員会)は一月一六日(木)に向けて、今後も署名活動をつづけていきますので、引き続きご協力よろしくお願ひいたします。

(陽光保育園子どものしあわせを願う会)



新理事長 片山高司さん

福祉切り捨て政策がジワリジワリと進められてきている今の時代ですが、乳幼児の保育と内容の充実が益々求められている時代でもあります。私たちが築いてきた「陽光保育」をすすめて行くために、皆さんと一緒に頑張ってください。皆さんのお力添えを心から期待しております。

公園ジャブ池開設期間復活についての建設委員会を傍聴して

去る九月二五日に右委員会を傍聴、

共産党大田区議の「他区ではジャブ池のある公園は少ないが、板橋区では三八ヶ所あり、区民の要望に応えた誇れる事業であるはず。善い取り組みを削減しないでいこうというふうには考えられないのか」という発言に続いて自民党区議の「受益者は期間が長く、清潔な池を望んでいるが、それを支えている担当者(管理運営協力会)は大変だと思ふ」といった発言もあり、意見はさまざま。共産党は「子供達の楽しみな事業を何故削るのか、六〇〇万円くらいの予算復活は当然なのでは」と採択を主張しましたが、他の会派は継続。多数決で「継続審議」となりました。十一月の委員会を期待したいものです。(原 芳子)



元気な卒園児の荒馬踊り(運動会=10月15日・於板小)

娘からの贈り物(講演)

有森 広子

【日時】 11月12日(日) am10時～12時
【会場】 仲町区民センター(無料)
【参加】 バルセロナオリンピック女子マラソンの銀メダリスト、有森裕子さん。両腕を高々と上げてゴールしたときの笑顔は忘れられません。あの笑顔の秘密とは……。彼女のお母さま、有森広子さんから子育てのこと、家族のことなど、お話をうかがいます。主催 陽光保育園

陽光保育園後援会

★秋の交流会
【日時】 10月29日(日)
am8時15分西武池袋地下改札口集合
【場所】 高麗・巾着田
田舎汁を作ります(材料持ち寄り)。みんなで食べて遊ばしましょう。

★冬のバザー
12月3日(日)に開催予定。詳細未定。その他、新春コンサート、学習会など計画です。

陽光保育園父母の会

★廃品回収……毎月第4土曜日に実施
★ベルマーク……常時。保育園南出入口の脇に設置されている黄色の箱で回収しています。

ひまわり募金 ありがとうございます (1995.4.1~10.10)

- 個人 木部ふじ・小沼智子・永井芳子・田中良雄・佐久一枝・鳴坂年正・辻脇子・阿部和子・須藤弘子
- 団体 有限会社美登里
- 募金箱 7月2日
バザー当日

ひまわり募金とは

定員未充足、土地更新等々、課題いっぱいの中、当法人の安定した運営のために1991年に「ひまわり募金」を開設し、募金を呼びかけています。応援してください。

随時寄付金として下記の口座で受け付けておりますので、よろしくお願ひいたします。

(郵便振替口座)

00140-5-25167

(加入者名)

社会福祉法人 陽光会
陽光保育園

実りの秋と子どもたち

（秋の味覚を楽しむ）

実りの秋、美味しいものが沢山ある中、子どもたちが毎年楽しみにしているのは、陽光恒例の芋ほり、しいの実拾い、銀杏拾いといった秋の収穫祭です。採ってきたものはその日のうちに調理します。保母と子どもたちが一緒に園庭の砂場を平らにしてかまどを作り、火をおこして作るのです。

その中でもとくに楽しみにしているのが焼き芋大会です。火をおこすために四、五歳児は木々の沢山ある公園へ出かけ、薪になる枝を拾い集めます。二、三歳児も協力して落ち葉を集めて出かけ、意気揚々と園に戻ってきます。みんなの力が結集して焼き芋大会の始まり。

まずは、薪を燃やしておきをつくる。その間に子どもたちは大量の芋をアルミホイルにくるむ。全園児、全職員が心待ちにする中で、おきの中に芋をねかせ、上から落ち葉の布団をかけると、子どもたちから「やきいもやきいもおながグー。ほっかほっか ほっかほっか あちちのチ」と歌がとびだします。



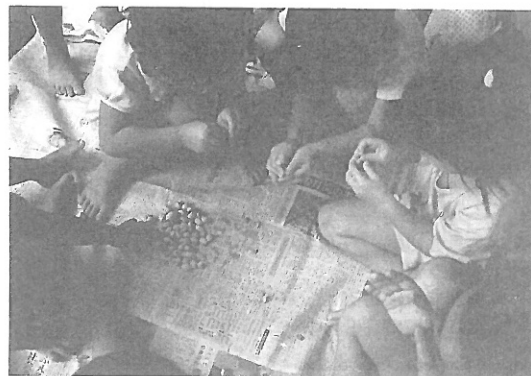
上：「モクモク」「ホカホカ」「モグモグ」園庭での焼き芋大会
下：木洩れ日の中、落ち葉あそびを楽しむ子どもたち

す。三〇分もするといひ匂いがたちこめてきます。取り出してわってみると、黄色いホッカホカの焼き芋のできあがり。かまどの周りに腰を下ろしフーッって食べる焼き芋は、あまくてほっぺがおちそうになるほど美味しい。これぞ秋の味覚なのだ。

落ち葉あそび



秋が深まってくると、どこの公園にも落ち葉が沢山あります。城北公園はいつ行っても沢山落ち葉があり、雪合戦ならぬ落ち葉合戦で遊んだり、地面に寝て落ち葉の布団をかけてもらって気持ちよさそうにしている子どもたち。そして、なんとこれも城北公園での楽しみは落ち葉の山への飛び込みです。みんなで落ち葉を集めて山のように積み上げ、傾斜面の下に飛び込み用クッションを作ります。できあがると、われ先にと上から走り下りてきて落ち葉クッションに勢よく飛び込みます。「ガサッ」「ドサッ」と足から入ったり、頭から体ごと倒れこむ子もいます。一人でも楽しいし、二、三人で手をつな



「銀杏っておいしいネ」。銀杏の皮むきに励む子どもたち

銀杏採り



運動会（一〇月中旬）が過ぎた頃、また楽しみがやってきました。美しい扇形の葉の中に黄金色の実をつける銀杏です。秋風の中にあの独特の異臭を放つようになると、お散歩先は城北公園、平和公園へと広がります。銀杏は高級料理にも使われていますが、陽光保育園では焚き火にフライパンをかけた空煎りします。固い殻がわれ、パンパッと爆ぜてきたら出来上がり！縁側またはベランダに新聞を敷いて今か今かと待っている子どもたちの前に出ると、何十人も子どもたちが一斉に群がります。時には迎えにきたお母さんも加わります。これが最高です。小さい子が採ってくる椎の実も同じように煎って食べます。多少甘味をおびて香ばしいので、これも止められません。十一月、銀杏臭くなった保育園の中で、保母は銀杏の皮むきに精を出します。

銀杏採りは保母も夢中になります。木に登り、枝をユッサコラサとゆすり、度が過ぎて叱られたこともあります。実りを得ることばかりでなく自然を守ることも伝えてゆかなければと戒めつつ、また出かれます。都会の中で木の実を採って食べるなんて、砂漠の中のオアシスのようなものです。何一つ遊

茂呂山公園のどんぐり拾い

陽光保育園から歩いて、年長児で二〇分ほど行ったところに茂呂山公園があります。以前はただの小山で、雑草が生えた草原と、木が茂っているだけの公園でしたが、今は大分整理されて、遊具も芝生もベンチもある、普通の公園になってしまいました。

でも、九月の後半から一〇月にかけてはビックリすることがあります。それは、どんぐりです。何種類ものどんぐりがいつべんに落ちてくるのだから壮観です。土の斜面にどんぐりがびっしりと落ちていて、その頃をみはからつたように、あちちの保育園、こっちの保育園からどんぐり拾いにやってきました。時には小学生も来ています。楳（かし）、榎（なら）、椎（しい）、桐（くぬぎ）などのほか、うれしいことに栗の木もあり、いくつか実をつけています。エゴの実もそれらに混じって沢山落ちています。拾うだけでも楽しいのですが、それを採ってきて、どんぐりごまやじろべいなど、遊ぶものを作るのも楽しい。どんぐりぶつけをしてその場でごっこ遊びをするのも楽しい。でも、密かな楽しみは、大きめの実を挽いて粉をつ

子育て1分メモ

水と砂（土）は「幼年期の子どもにとって最高の玩具である」といいます。どうしてあれほどまでに子どもを夢中にさせるのでしょうか。

おそらく、すべての生命にとって母なる海とか母なる大地というように、すべての生命は水の中で発生し、大地に根ざして育ちます。ですから人の幼い生命も、水と砂を本能的に要求しているのです。人類の文化、文明もすべて大地に根ざし、しかも水辺から始まっています。これと同じで、子どもの遊びもまた水

妻より長い？ 夫の時間



長男が小学校に入学してから、保育園の送り迎えの時間は私と真志保とのマンツーマンになりました。自動車の助手席で真志保はいろいろな話をします。車のナビゲーションの読み方はずいぶんと覚えられました。この間も、「あっ、札幌。遠くから来てるねえ」と真志保。「そうだね。北海道のじいちゃん、あちゃんがいる方だ」「うん、そうだね。大宮より遠い」。私には、この朝、夕の時間帯がとても貴重です。学校に入れば話す時間はぐんと減ってしまうのは確かだからです。なにげない真志保の仕事や言葉、そして会話を楽しみながら保育園に通う毎日です。お兄ちゃんが学校が休みのある日、真志保はどうしてボクだけ保育園に行かなくてはいけないのか、とその理不届きに泣きわめ、車のなかでいろいろと説明してもなだめずかしても全然だめ。「真志保、尻取りやろう、シリトリ」、エンエン、エン。「ん、で終わっちゃだめだよ、シリトリならんよ、えーん、あ、マシの負け」、エン。保育園についても泣きやまず、保母さんに託してしまいました。ありがたうございました。真志保の自尊心育っています。

お父さんの出番です！

今年の夏は子供二人と初めて北海道の私の実家に行きました。お母さんは仕事の都合で留守番です。帰りの飛行機。「お母さん、空港で待ってるね。楽しみだね」と二人。ところが「あ、あ、ショック。裏切られたあ。私もどうしたんだろうと子供たちの顔を見ながら心配。そこへ「アハハ、出口まぢがえちゃった」とたずね人登場。飛びつ子供たちに「お母さんのことそんなに好き？ 怒るお母さんでも好き？」と妻。「だ、あい好き」と二人。うーん、お父さんも仲間に入りたかったな、というそぶりはみせず、「東京は暑い」。日頃から母子家庭のようなもので、お父さんの影は薄いので、うらやましいなあと思つたことでした。うちのお父さんはいつもいない、と子供たちから思われているのはつらいものです。まだまだ子供と接する努力も足りないと思います。過ぎ去りかえらぬ子供との時間を大切に心がけて頑張りたいと思います。（五歳児クラス・真志保の父 大田伸二）

柿の実とり



くり、どんぐり団子を作ることです。これは宮崎県の郷土料理にもなっているほどの美味な味わいなのです。柿の実が色づいてくると、保母も子どもたちもそれはそれはうれしくなります。散歩の行き帰りで、目が柿の

「ワイワイ、ドンドンドン」とさるかにの歌を歌いながら、意気揚々と出かけて行き、保母がのこぎり片手に木に登り、どんどん採ります。子どもたちは下から、ワイワイと盛んにはやしたてます。採った柿は、一部は園へのお土産にして、大半は公園へ行って食べてしまいます。数年前ですが、職員の家には柿がいっぱい実ったから採りに行こうという話になり、三、四、五歳児がバスに乗って採りに行ったことがあります。自分の手でもいで、その場で大きいのを一個食べて、残りはリュックにいっぱいにして持って帰ってきました。柿も沢山リュックに詰めるとずごく重いです。それでも頑張つて運んできました。

辺から始まるのでしよう。人類の文化、文明は人間の開放された手で、自然に働きかけて自然を変化させることによって切り拓かれてきました。子どもは幼い手でも容易に形を変化させることができる自然界の素材として、水と砂は最高のものです。動物でなく人間になる学習の対象として、この水と砂くらいふさわしいものは他にありません。どんどん、水、砂、土に触れさせて遊ばせましょう。（鳥居昭美著「子どもの絵をタメにしていませんか？」より）